

おはようございます。香川県教職員組合 寄宿舍指導員中尾と申します。今日は、お忙しい中お時間をいただきありがとうございます。

これまで4年間連続して、寄宿舍指導員の正規採用および雇用の実現、感謝しております。今回、5年目の署名を持って参りました。全国から 筆の署名が寄せられています。この間、香川県の寄宿舍指導員の正式採用の動きは、全国の寄宿舍指導員の大きな励みになっております。

それでは、要望についての説明をいたします。

香川県の寄宿舍指導員の年齢構成をみますと、今後、年ごとに退職者が増えます。今後とも、継続して採用試験を実施していただき、正規採用の雇用をお願いしたいと思います。臨時職員は、毎年入れ替わるため、舎生に対しての継続的な支援・指導ができないなど、不都合な点が多々あります。

また、舎生を性別で見ると、男子が多いので、長年、これまでゼロだった男性寄宿舍指導員の正式採用を要求してまいりました。女性指導員にも年齢に大変偏りがあります。舎生のバランスのよい発達を支援するためにも、指導員の仕事の継承などのためにも、今後は、性別・年齢のバランスを考えた正規採用もお願いしたいと思います。20代30代の男性指導員もまだまだ必要ですが、大量退職時代の前に、20代30代の女性指導員も必要となってきています。

来年度、開校が予定されている小豆島中央高校の寄宿舍については、新聞等の発表では、地元野方を臨時的雇用して対応するとされています。

当面は、その対応で進めると思うのですが、今後、今いる指導員の中から、新たな正規雇用なしに、小豆島中央高校寄宿舍へ、配置することがないように強くお願いします。

現在、舎生の障害の実態が重複化・重度化しており、今いる指導員の数でも、重労働であり、ひとりひとりの舎生に対して丁寧に対応することができません。病休者が出ると、1人が泊まりの日数が増えます。指導員の負担を考えると、家庭の都合で年休を取りたくても、取りにくい環境があります。

県教委は、幅広く指導員を雇用するために、採用試験受験資格をかなり緩和しました。しかし、本当に必要なのは、寄宿舍指導員という仕事が、魅力あるやりがいのある仕事であることを多くの人に知ってもらい、勤務条件や勤務環境を整え、寄宿舍指導員という仕事を選択する人を増やすことではないでしょうか？その点を考えれば、現在の寄宿舍指導員の置かれている人的配置・給与など改善の余地はたくさんあると思います。そのために、

勤務環境を整えるという点でも、正規職員を増やすことをお願いしたいと思います。ぜひ、検討していただきたいと思います。

本要求書にはございませんが、正規職員の2級のわたりの問題も生じてきています。近年の正規採用年齢が上がって来ているため、40歳近くで、正規採用になった者は退職までに試験を受けることができない者や、退職直前まで受けることができない者も出てきています。条件の緩和の検討もお願いしたいことの一つです。

最後に、盲・ろう・中部・高養のすべての寄宿舎を今後も存続してください。寄宿舎は、通学困難を解消するだけでなく、障害児の社会的な自立を培っていくところです。寄宿舎に期待する保護者や学級担任も多くいます。現在は、家庭教育の機能低下、育児放棄などが障害のある生徒にも広がってきています。生徒たちは、大変な環境の中で生きています。障害児にとって家庭と学校だけでなく、第3の空間も大切な生活教育の場です。このことを十分に認識くださり、寄宿舎の廃止という議論が起こらないようにお願いいたします。